

<株式会社エフエム東京 第440回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成29年7月4日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数6名（社外6名 社内0名）

◇出席委員（5名）

横森美奈子 委員長 渡辺貞夫 委員
内館牧子 委員
ロバート キャンベル 委員 川上未映子 委員

◇欠席委員（1名）

秋元康 委員

◇社側出席者（10名）

富木田 代表取締役会長
千代 代表取締役社長
吉田 常務取締役
村上 取締役営業局長
西川 常勤監査役
森田 執行役員編成制作局長
兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延江 営業局エグゼクティブ・プランナー
宮野 編成制作局編成部長
若杉 編成制作局制作部長
高橋 編成制作局制作部プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（1名）

平 専務取締役

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約24分）
『JET STREAM -50th Anniversary Special-』
2017年7月3日（月）23:00～24:55

≪議事内容≫

議題 1:最近の活動について

■『JET STREAM』放送開始 50 周年

TOKYO FM をはじめとする JFN38 局で放送中の『JET STREAM』（月・金 24 時～24 時 55 分）が、2017 年 7 月 3 日（月）に番組放送開始 50 周年を迎えました。海外旅行がまだ夢だった頃（1964 年海外旅行自由化）、TOKYO FM の前身で、東海大学が行っていた実用化試験放送局「FM東海」時代の 1967 年から放送している FM ラジオ最長寿番組で、旅と音楽を柱とした深夜のリラクゼーション・プログラムをコンセプトに、番組提供社の日本航空とともにラジオ界の歴史を創ってきました。パーソナリティは初代が城達也。以後、小田野英一、森田真奈美、伊武雅刀が務め、2009 年 4 月から新機長に大沢たかおが着任。今なお、夜の静寂の心を休める時にイメージの世界旅行をお届けする午前 0 時の音楽の定期便として、幅広いリスナーに愛され続けている番組です。



▲城達也



▲大沢たかお

50 周年イヤーとなる今年、伝統と革新をテーマに、今の時代だからこそラジオの原点である音の強み、想像する楽しみを最大限に活かしながら、新たな JET STREAM を構築するプロジェクトを立ち上げ実施しています。まず、今年 4 月から、番組テーマソング『ミスター・ロンリー』をヴァイオリニスト・古澤巖&ベルリン・フィルハーモニー・ヴィルトオージによる新バージョンでの放送をスタート。そして、世界各地で暮らしている日本人ネットワークを活用し、ポータブル収録機で世界の街の表情、人々が紡ぐ音を現地で収録し、世界各地の生の音を活用して番組を演出する「JET STREAM 音の旅」を実施。



▲ヴァイオリニストの古澤巖（右から 3 人目）

さらに、人気コーナー「サウンド・グラフィティ」では、松任谷由実、平井堅、小林克也など、アーティスト・文化人らが毎週金曜に「私のサウンドグラフィティ」として JET STREAM の世界に寄り添った選曲をするなど、FM 番組史上最長となる JET STREAM 放送開始 50 年を盛り上げています。

50 周年を迎える前日の 7 月 2 日（日）は、六本木・TOKYO MIDTOWN アトリウムにて JET STREAM 50 周年記念イベント&公開生放送を行いました。JET STREAM 50 年の歴史を振り返る企画展示、ハイレゾでの JET STREAM 視聴コーナーに加え、13 時からは特別番組『JET STREAM 50th Anniversary Special～Invitation to DREAM FLIGHT～』の公開生放送を実施。番組の案内役として、JET STREAM 機長の大沢たかおが登場し、夢のフライトへと誘いました。特別ゲストには、溝口肇、石井竜也、古澤巖が出演。この日の特別コラボレーションとして、番組テーマ曲『ミスター・ロンリー』を 15 年担当していたチェリスト・溝口肇と今年から担当している古澤巖が『ミスター・ロンリー』スペシャルセッションを披露し、会場は歓声と盛大な拍手に包まれ 50 周年イブを盛り上げる公開生放送となりました。



▲案内役は 5 代目パーソナリティ・大沢たかお



▲会場の様子



◀左から

森田真奈美 (3 代目パーソナリティ)

大沢たかお

古澤巖

溝口肇

石井竜也

そして、50 周年当日である 7 月 3 日（月）は、通常番組を 1 時間拡大し、2 時間の特別番組『JET STREAM-50th Anniversary Special-』を放送。23 時台は、「Road to 50th Flight～飛び続ける翼～」と題した JET STREAM クロニクル。初代機長・城達也氏の初期ナレーションなど過去の放送音源を交えながら 50 年間の旅の変遷を振り返りました。日付変わって 24 時からは、TOKYO FM スタジオイリスからの生放送。「Fly To The Future～大空の間奏曲～」と題して、世界へ飛び出して活躍する 4 組の日本人アーティストの生演奏と機長・大沢たかおのナビゲートで、国境を超えて人々の心と心が繋がる未来へ向けて、51 年目の初フライトをお届けしました。



なお、50 周年イヤーの締めくくりとして、今冬にコンサートを実施予定です。

■『SCHOOL OF LOCK!』スクールソングプロジェクト

10 代向け番組『SCHOOL OF LOCK!』（月・金 22 時～23 時 55）では、音楽で感謝を伝える企画「『SCHOOL OF LOCK!』スクールソングプロジェクト」を実施しました。このプロジェクトは、学校生活の中で感じた、「ありがとう」を、これまで陰で支えてくれていた誰に向けて歌でエールを贈る企画です。誰かに向けた感謝のエピソードを全国から募集し、オリジナルソングでその気持ちを伝えます。200 通を超える応募の中から選ばれたのは、今年で廃校になってしまう母校への感謝を表した「旭川東栄高校」。3 年生 150 人しか在校せず、3 年生の卒業をもって学校は廃校に。このエピソードをもとに、若者から大人気の 3 ピースバンド・UNISON SQUARE GARDEN が合唱曲「学び舎の春」を作成。生徒たちが全員で学び舎への感謝を込めて「学び舎の春」を歌うイベントに、UNISON SQUARE GARDEN もサプライズ出演をいたしました。

生徒たちが練習する様子、当日のイベントの様子は、7 月 19 日（水）22 時～の『SCHOOL OF LOCK!』にて放送、さらに、ドキュメント映像として夏に web 上で公開予定です。



▲校舎の窓に「青春の最終章」「150 人のファイナリスト」



▲プロジェクターで映像を流しながら、生徒から先生、友達、部活のマネージャーに感謝を伝える



▲サプライズに驚く生徒たち



▲合唱本番の曲の2番で照明がOFFになりサプライズ登場

学生からのメッセージ

私が感謝を伝えたいのは、学校です。

私の高校は今私たち3年生約150人しかいません。そして私たちが卒業したら学校は閉校してしまいます。これからの行事には毎回『最後の』と付く学校の歴史の最後を締めくくる大切な行事になります。でも中には、後輩もいなくて行事へのやる気が出ないという人もいます。そしてわたしは放送局に所属しています。学校行事のサポートをいつもしてきて、最後の学祭にむけてこれから走り出す予定です。なので最後まで全員で盛り上がり、最後まで走りきって閉校を迎えられたらと思います。これが学校への感謝を伝えられるのかな??と思っています。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○『JET STREAM』50周年、51年目を迎えて、還るところ、加えるところ、刷新するところがあったと思うが、現在のリスナーの年齢層はどうか。また、「わたしのサウンドグラフィティ」は平井堅さんの回を拝聴したがとても良かった。

■番組のターゲットとしては、「30代から上の世代」と幅広く据えており、番組を長く続けているとリスナーが高齢化すると思われがちだが、聴取率調査の数字を見ても、若い世代も番組を聴いていることが分かっている。

○何か工夫をしたり、変化をさせたことはあるか。

■先ほどご試聴頂いた中に、「音の旅」というコーナーがあったと思うが、現在はネットやメールを利用して海外から「現地の音」を送ってもらうことが容易になった。世界各国、様々な国に住んでいる日本人に、スマートフォンやポータブル録音機を持って街に出てもらい、現地の音や現地の人々の声を録音して送ってもらい、このコーナーに活用している。また、その方たちから現地の生の情報を仕入れ、世界と双方向に繋がる番組作りを心掛けている。

■番組開始当初に青春時代を過ごしてくれた世代の方々が、50年という節目を感慨深いと感じてくれたことは大変ありがたく、現在はそのリスナーたちに楽しんでいただくような企画の準備をしている。また、これからの若い世代のリスナーも大事にしていきたいと考えていて、宿題として編成制作・営業の垣根を超え、取り組んでいる。

○『SCHOOL OF LOCK!』がこのような企画もやっていることは、ラジオからの発展形かと思う。エピソードを全国から募集し、オリジナルソングでその気持ちを表すという企画、このオリジナルソングが『学び舎の春』というタイトルか？また、番組独自のオリジナルソングなのか？

■オリジナルソングのタイトルは『学び舎の春』。この企画のために若者に人気のある UNISON SQUARE GARDEN というバンドが曲を創り、応募があった高校の生徒たちのために贈った。曲を贈られた生徒たちが、自分たちの気持ちを込めてこの曲を歌い、支えてくれた学校の職員たちはじめ、感謝を送りたい

<第 440 回放送番組審議会議事録>

人へ聴かせることであつと驚かせるサプライズを仕掛けたはずが、合唱中にステージ後ろの幕が開き、UNISON SQUARE GARDEN 本人が登場し、サプライズを受けた学生たちから歓喜の声が上がった。

○学生たちは大変驚き喜んだのではないか。素晴らしい企画だ。

■配布資料にも当日の様子を掲載したが、感激のあまり泣き出す子もいた。

議題 2 : 番組試聴

- 【番組名】 『JET STREAM -50th Anniversary Special-』
23 時台 「Road to 50th Flight～飛び続ける翼～」
24 時台 「Fly To The Future～大空の間奏曲～」

【放送日時】 2017年7月3日（月） 23:00～24:55

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、平日 月曜～金曜に放送している番組『JET STREAM』の7月3日（月）放送のダイジェストです。

▼23 時台 『Road to 50th Flight～飛び続ける翼～』

1967年7月3日に番組放送を開始した JET STREAM の50年間のクロニクル。初代機長・城達也氏の貴重な同録音源も放送しながら、JET STREAM の視座から、この50年間の世界の移ろいを振り返っていきます。

▼24 時台 『Fly To The Future～大空の間奏曲～』

TOKYO FM スタジオイリスから、機長・大沢たかおのナビゲートと豪華アーティストのLIVE で世界の今を巡る特別番組『Fly To The Future～大空の間奏曲～』をお届けしました。出演したのは、ヴァイオリニスト・古澤巖、ギタリスト・小沼ようすけ、音楽プロデューサー・関口シンゴ、キーボーディスト・BIGYUKI ら。世界で活躍する新進気鋭の日本人アーティストらが、新時代のJET STREAM を象徴するスペシャル・セッションで、「音楽」と「旅をすること」の素晴らしさを表現しました。



大沢たかお



古澤巖



小沼ようすけ



関口シンゴ



BIGYUKI

■当日のオンエア楽曲

- ・To You Sweetheart Aloha／John K.Almedia Orchestra & Benny Rogers
- ・The Theme From A Summer Place／Percy Faith Orchestra
- ・グリーンスリーヴス／マントヴァーニ
- ・ドリーム・ジャーニー／ボブ・ジェームス
- ・Jet Stream～ロワールの星／Caravelli et son Grand Orchestra
- ・夜間飛行（ジェットストリームの特典）
- ／レイモン・ルフェーヴル・グラント・オーケストラ
- ・Yesterday Yes A Day／Jane Birkin
- ・これからの人生／ミシェル・ルグラン・トリオ
- ・ナイト・アンド・デイ／ロニー・ジョーダン
- ・Comme Au Premier Jour／溝口肇
- ・ニュー・シネマ・パラダイス(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)
- ／古澤巖
- ・シェルブールの雨傘(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)／古澤巖
- ・タイム・アフター・タイム(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)
- ／関口シンゴ
- ・ブリリアント(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)
- ／関口シンゴ
- ・JOHN CONNOR(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)
- ／BIGYUKI
- ・Mr.Lonely(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)／BIGYUKI
- ・懐かしのニューオリンズ(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)
- ／小沼ようすけ
- ・Flyway(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)／小沼ようすけ
- ・ホット・ア・ワンダフル・ワールド(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)
- ／小沼ようすけ&関口シンゴ
- ・Mr.Lonely(JET STREAM 50th Anniversary Special Live)／古澤巖

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○初代機長の城達也さんの声や、さらにナレーションの美しさ。押し付けがましくない、素晴らしい文章で、構成も良かった。放送開始当初から聴いているが TOKYO FM の良心だと思えるような番組。最近の若い人向けのラジオやバラエティは騒々しくて、アニメ声というらしいが、耳に障るような声を聴くことがある。そのような番組が多い中、この番組が品性を保って 50 年放送し続けてきたというのは、本当に素晴らしいこと。

○城達也さんの後を務めるのは、たとえ誰であっても大変だったろうなと思った。良いか悪いかの基準が城達也さんだったように思う。伊武雅刀さんが低音だったり、大変だったかもしれないが、みなさんそれぞれ個性があって、いい機長だったと思う。

○番組開始当初と違うのは、今は子連れで海外に行ってしまう時代。夫を家に残して、お母さんと子どもが海外に行ってしまうような時代になった。この番組を聴いていた当初は海外旅行なんて夢のまた夢だったが、カジュアルに行けるのが当たり前になった今、さあ番組をどう作るのかという課題があると思うが、個人的には、50 年前のトーンを崩さないほうが良いと思っている。海外旅行が当たり前になったとはいえ、行ってない国もまだまだたくさんあって、それらの国に音楽はあり、フライトはあるわけなので、それらの国へ誘って欲しいと感じた。

○大沢たかお氏のナレーションがゆったりしている。

○この番組は世相の移り変わりを表すということよりも、番組が変わらないところが良いところかと思う。間にある音楽が長くて夜の時間が流れるのをその時間に聴いているとすごく吸い込まれていく。今回の特別番組は、少し間（ま）が長いように感じた。また、音の効果が変わっているように感じた。今の時代の JET STREAM は、インターネットのブロードバンドのことを言っている気がする。飛行機に乗って行くという現実よりも比喩的に感じられる。さらに言えば、飛行機のジェット音は、現在において気持ち良く聞こえないのではないかと思う。30 年前は憧れの音だったのかも知れないが、鉄道の「ガタン・ゴトン」という音が心地よいのに比べ、ジェット音は少し騒音に近いという気もする。

○この特番での大沢さんのナレーションは、気怠さを演じている気がして、没个性的に感じてしまった。

○改めて、とても豊かで贅沢な時間を感じながら拝聴した。現代は身近にスマートフォンがあって、PC があって、常にメールを受信して。見たい・知りたい情報にずっとさらされていて、そういう日常の中でこの番組を拝聴して、いいなと思ったのは大沢たかおさんのトークや番組の流れで、自分の中で別のものが立ち上がって来ること。例えば、思い出とか記憶とか。忙しく過ごしている中のそういった空白の部分に近い番組だなと感じた。想いを馳せる、という表現がぴったりな番組。

○「何を聴いて、どんな番組だった」ではなく、「またあの感じを味わいたい」という感覚をリスナーに確実に残す番組。この感じは、例えば子育てをしていたり、仕事が忙しかったりする 40 代の方にも贅沢な時間を与えていると思う。これからもっとこういう感覚、「束ねているものを緩めていく」、こういう感覚が大切かと思う。

○大沢たかおさんのナレーションのトーンについては、最初、入っていける人と入っていけない人がいるのではないかと思ったが、ずっと聴いているとこれはアリだなと思えてくる。良く考えてみると、あのトーンで普段自分に話しかけてくる人はいない。これこそがフィクションの力なんじゃないかと思う。ノスタルジーを現代においてどう扱っていくかの問題。

○私も 10 代の多感な頃からこの番組を聴いてきた世代。城達也さんの声を聴いて刺激が強くて気持ちが高まってしまった。しみじみと素晴らしい番組を聴いて育つことができありがたいなと思った。想像力の発達クリエイティブに繋がると思うので、番組を聴いて育つことができたことに感謝している。

○若い層が聴いているということが想像できなかった。

■50 周年を迎えるにあたり、編成・営業共に議論を重ね、臨んだ企画だった。改めて城達也さんのアーカイブを聴く機会となったが、我々が想像していたよりもずっとカジュアルで、等身大の放送だったことに気付いた。

■世代についていえば大沢さんになってから 20 代・30 代女性の聴取率がぐっと伸びた。

■若い世代とのアジャストは今後も研究していきたいと思う。

5.放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

7月 29 日 (土) 7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、9月5日(火)に開催することを決めた。